

生誕130年

橋口五葉展

2011 6月14日(火)―7月31日(日)

開館時間 月～木 日曜日 10時～18時 / 金・土曜日 10時～20時 *入場受付は閉館の30分前まで 休館日 第一月曜日(7月4日(月))
観覧料 一般 1000(800)円、大学生 700(560)円

※小中学生、高校生、障害者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料

※()内はローンチケットコード:37960 / 団体20名以上、および市内にお住まいの60歳以上の方の料金

主催 千葉市美術館 東京新聞



《黄薔薇》1912年 / 絹本着色 一幅 / 122.7×50.6cm / 個人蔵



《化粧の女》(部分)1918年 / 木版多色摺、紙 / 51.0×36.3cm / 千葉市美術館蔵

※開館時間につきましては節電のため変更となる場合がございます。

※作品の一部を展示替いたします。

千葉市美術館

Chiba City Museum of Art

〒260-8733 千葉市中央区中央3-10-8

Tel.043-221-2311(代) <http://www.ccma-net.jp>

幻の《黄薔薇》あらわる。

橋口五葉(1881-1921)は鹿児島市の生まれ。1899年に上京してはじめ橋本雅邦に日本画を学びますが、まもなく洋画に転じて東京美術学校へ進みました。油絵修業のかたわら図案にも才を発揮、1905年にはかの『吾輩ハ猫デアル』(夏目漱石著)で装幀家としてデビュー、以後アール・ヌーヴォーを基調とした優美な装本の数々を世に送りました。1911年の三越呉服店による懸賞広告画募集では1等となって話題をさらい、同じ頃から錦絵の研究・復刻にも取り組んでいます。そして1915年の渡邊版《浴場の女》を経て《化粧の女》や《髪梳ける女》に代表される珠玉の私家版木版を残し、41歳の若さで没しました。

本展は、監修に美術史家の岩切信一郎氏を迎え、油彩、水彩、素描、版画、絵葉書、装幀本、ポスターなど約400点から改めて橋口五葉の全貌を探ろうとするものです。展示作品は、1912年の无声会展に出品され、白黒写真でのみその存在を知られていた幻の《黄薔薇》をはじめとする新出資料を数多く含み、五葉の制作の軌跡をかつてなく照らすことでしょう。五葉が独自の美意識をもって創造した多様なデザインや女性像、その馥郁たる線と色を、どうぞご堪能ください。

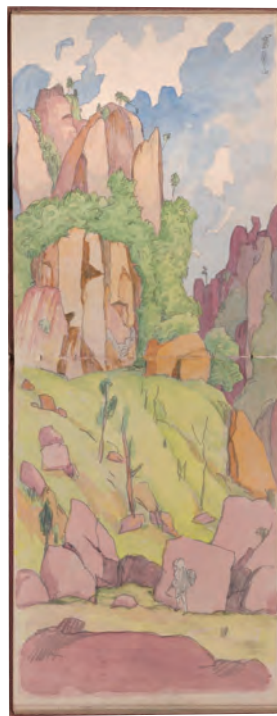
幻の《黄薔薇》あらわる。

生涯130年

橋口五葉展



- 1—《孔雀と印度女》1907年／油彩、キャンバス(衝立)／各163.5×82.6cm／個人蔵(鹿児島県歴史資料センター黎明館寄託)
- 2—《爪を切る女》制作年不詳／鉛筆、紙／37.8×28.7cm／鹿児島市立美術館蔵
- 3—《髪梳ける女》(部分) 1920年／木版多色摺、紙／45.0×34.8cm／千葉市美術館蔵
- 4—《彦楽山》1910年のスケッチブックより／鉛筆・水彩、紙／37.0×13.9cm／個人蔵
- 5—装幀『虞美人草』(夏目漱石著)1907年／22.6×15.0cm／個人蔵(千葉市美術館寄託)
- 6—装幀『相合傘』(泉鏡花著)1914年／22.4×15.3cm／個人蔵(千葉市美術館寄託)



●記念講演会

「新・橋口五葉 譚」

7月10日(日)14:00より 11階講堂にて
講師:岩切信一郎(美術史家) 先着150名様 聴講無料

●ギャラリートーク

担当学芸員による 6月15日(水)14:00より
ボランティアスタッフによる 会期中の毎週水曜日
(6月15日を除く)14:00より ※水曜日以外の平日の
14:00にも開催することがあります。

●市民美術講座

「橋口五葉が追い求めた女性像」

6月25日(土)14:00より 11階講堂にて
講師:西山純子(当館学芸員)

「橋口五葉と浮世絵」

7月16日(土)14:00より 11階講堂にて
講師:小林忠(当館館長)

※いずれも先着150名様 聴講無料

■同時開催(所蔵作品展)

「ドローイングの楽しみ」

会期:6月14日(火)ー7月31日(日)
※「橋口五葉展」をご観覧の方は無料

【交通案内】

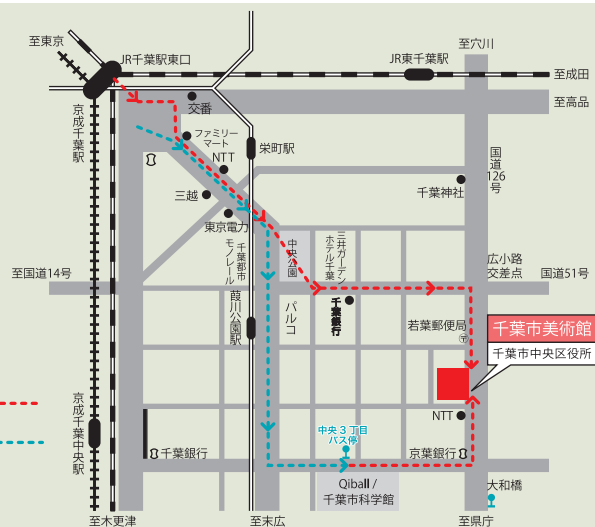
◎JR千葉駅東口より
徒歩約15分／バスのりば⑦より大学病院行または
南矢作行にて「中央3丁目」または「大和橋」下車徒歩約
3分／千葉都市モノレール県庁前方面行「霞川公園駅」
下車徒歩約5分
◎京成千葉中央駅東口より徒歩約10分
◎東京方面から車では京葉道路・東関東自動車道で宮
野木ジャンクションから木更津方面へ、貝塚IC下車
国道51号を千葉市街方面へ約3km 広小路交差点近く
◎地下に千葉市中央区役所と共通の駐車場があります。
混雑が予想されますので、なるべく公共の交通機関を
ご利用ください。



■次回展予告

「浅川巧生誕120年記念

浅川伯教・巧兄弟の心と眼ー朝鮮時代の美
浅川兄弟とゆかりのある陶磁器を中心に、朝鮮時代の
美と近代日本の美意識の関わりを紹介する。
会期:8月9日(火)ー10月2日(日)



千葉市美術館

Chiba City Museum of Art

〒260-8733 千葉市中央区中央3-10-8

Tel.043-221-2311(代) <http://www.ccma-net.jp>